



# 2015 Taste of Tsukuba KAGURADUKI STAGE 参戦報告書

スタートグリッド 9位 決勝Race 2位

■ゼッケン/エントリー名 : #21 / TRICK STAR Racing

■ライダー: 鶴田 竜二

■開催日 : 11月7日(土)~11月8日(日)/(茨城県筑波サーキット)

■マシン : Kawasaki Ninja H2R

■結果 : 予選9位 決勝レース2位

筑波サーキットで開催され多くのファンを持つTaste of Tsukubaに、今年Kawasaki から販売されたモンスターマシン『Ninja H2R』(クローズドコース専用マシン)で鶴田 竜二 自らHERCULESクラスに参戦する。



11月7日(土) 特別スポーツ走行 9:40~10:00

11:45~12:05 14:20~14:40

天候: 晴れのち曇り

路面 : ドライ

気温 : 17℃→18℃ 湿度 : 69%→66% 路面温度: 23℃→24℃

Kawasaki Ninja H2Rは、過給器スーパーチャージャーが備え付けられている並列4気筒D OHC1000ccエンジンのモンスターマシン。そのマシンで全長2.07Kmの筑波サーキットをどう攻略するのか、3回設けられた特別スポーツ走行で試行錯誤していく。どうしてもアクセルを開け始める際に、有り余るトルクで狙ったラインを乱してしまう。そしてストレートは強烈な加速が続き、コーナー進入時のタイミングを見誤ると転倒に繋がる。まさしくモンスターマシンをどうねじ伏せていくか課題は多い。



11月8日(日) 公式予選 10:50~11:05

天候: 雨路面: ウェット

気温 : 16℃ 湿度 : 89% 路面温度: 16.6℃

予選・決勝日の天気は午後から雨の予報だったが、 9時前から降り出してしまう。ウェットコンディションで の走行は初めて。モンスターマシンだが、ダンロップ レインと経験豊かな鶴田のライディングで、予選開始 早々はタイミングモニターの上位にランクされる。しか し転倒車から出されたオイルなのか、コースの所々に オイルもしくはガソリンの滲む跡が見受けられ、それ 以上のタイムアップを望まず、決勝も雨が予想される ので、決勝を見越した走行を続けた。





11月8日(日) 決勝12周 15:00~

天候 : 雨 路面 : ウェット 気温 : 16℃ 湿度 : 92%

路面温度 : 16℃

決勝日の各クラスで転倒車が多く、レッドフラッグが何度も掲示されレース中断を余儀なく されタイムスケジュールが大幅に遅れる。HERCULESクラスも12周から10周に周回数減算 されレーススタート。スタートを上手く決め1コーナー立ち上がりでは4番手までポジション アップする。しかし先行車が転倒しそれを避けようと鶴田もコースオフしてしまう。雨で濡れ た芝生をなんとか転倒を免れコースに復帰したが、計4台のクラッシュによりレッドフラッグ が出されレース中断。再レースも10周で行われると発表される。再スタートは1度目より更 に上手く決め、1コーナーでは2番手に上がる。トップにぴったりと着け裏ストレートから最 終コーナー入口で前車のインに飛び込んで抜き去りトップに上がる。その後ライバルが後 ろにつけ仕掛けようと見計らっているが、雨が降り続ける中 暴れようとするマシンをねじ伏 せ、巧みなライディングでKawasaki H2Rの優位な加速からストレートスピードを活かし7周 目終了時点までトップを快走し仕掛けるタイミングを与えない。しかし残り周回数を確認しよ うとサインボードを探すが、筑波サーキットの短い直線、そしてタイムスケジュールの遅れ で辺りは暗く、雨。その一瞬に1コーナー進入でライバルに先行される。8周目終了時点で 3番手で通過。前車との差は-1.1秒 後車との差は+0.2秒。最終ラップの最終コー ナーで先行するライダーが転倒してしまう。鶴田は焦る事なく後続の追撃を抑えきり2位で ゴールする。



### ライダー 鶴田竜二 コメント

#### 予選

朝から雨になりウェットコンディションで行われた。コースに出てダンロップレインの感触は良く、タイヤのグリップを確かめながら走っているうちに自然にタイムが上がってきた。リーダーボードでは21番の文字がトップに立っていた。このまま更にタイムアップを図ろうとしていたところで第2へアピン立ち上がり転倒車が出てコースにオイルかガソリンが溢れてしまった。この影響なのか第2へアピン後のバックストレートでホイルスピンが止まらなく、危険を感じたのでタイムアタックは控えた。その結果9番グリッドからのスタートとなった。

## 決勝

1度目のスタート直後の1コーナー立ち上がりで多重クラッシュが起こり目の前を塞がれる形となってしましい間一髪コース上から飛び出し、グリーンの上を走行し難を逃れる事が出来た。濡れた芝生の上を結構なスピードで走行している時は本当にヒヤヒヤした。それでもなんとかTRICKSTAR H2Rは芝生まみれの状態になりながらピットに戻り再スタートを切る事が出来た。

2度目のスタートも上手くクラッチミートが出来、9番手グリッドから1コーナーでは一気に2番手に着け ることに成功した。先ほどの多重クラッシュの後もありやや慎重になっているライダーをよそ目にダン ロップレインタイヤのグリップを最大限に発揮し、目の前を行くトップを追いかけた。裏ストレート手前第 2ヘアピン立ち上がりでそれまでの間隔がやや離れていたのでストレートでは追いつけないかな?と 思っていた。しかしスピードが増すにつれ、どんどんその間隔が縮まりブレーキング手前でほぼ真横ま で並べたのでこのチャンスを逃すとトップに立つのは容易ではないと思いブレーキングを遅らせ一気に 抜きに掛かり最終コーナー入り口でトップに立つ事に成功した。しかしトップにたったのは良いが、ほぼ はじめてのH2Rのレインのレース、今度は自分でペースを作らなければならなくなりより集中力を高め 、一つ一つのコーナーを丁寧かつ果敢に攻略していった。とにかく焦ってアクセルを少しでも大きくあけ るとホイルスピンがはじまり、あっと言う間に転倒してしまいかねないので、全神経をアクセル操作する 右手に集中させながら走らせるように気をつけた。感覚的にいえば猛烈な加速に対して僅かに0,1mm 以下レベルの単位でアクセルを開いて行くイメージだった。強烈な加速と重たい車体を振り回しながら 繊細なアクセル操作が要求される本当に難しいレースだった。そんな中でも助けられたのがグリップの 高いダンロップレインタイヤのお陰で路面とマシンの接地感を常に感じられながらコントロール出来た 事だ。でも油断はできず、常に滑り出すギリギリでコンロールしなければレースでは速く走らす事がで きず追い抜かれてしまうので常に高いコンセントレーションが必要だった。トップに立って周回が進むに 連れ後続車の音が近づいたり離れたする気配を感じ取れるようになりました。とにかくH2Rの武器であ るスピードを活かす為にストレートだけは全開全速力で走り切るしかないと思い必死だった。レースが 中盤から後半に差し掛かり、ずっと力を込めていた右手の感覚が鈍くなってきてしまいヘアピンカーブ を曲がっているアクセルコントロールが若干雑になり始めてしまった。コーナーに入り口でアクセルを全 閉にして進入し、マシンを寝かし込みコーナーリングに移していく、失速しない程度のに僅かにアクセ ルを開く、H2Rの特性柄マシンは唐突に加速しようとするのですぐまたアクセル閉じてマシンの頭をコー ナー出口に向けようとする。H2Rはこのような低速コーナーではパーシャルコントロールが出来ない為 、一つのヘアピンコーナーで微妙なアクセル操作を3回行う必要があった。これが後半になって右手の 疲労から微開コントロールが出来ていたところが出来なくなり、ほんの僅かだが大きく開いてしまう。す るとマシンの向きがイン側に向かなくなり大きな弧を描いてしまうことになってしまう。結果ラップタイム が落ちていく。こんな状況になりながらも無我夢中で走り、後ろも振り向かずサインボードにも目をやら ず、というか逆に後ろを振り向けない、ストレートもアクセルを集中して開けてないと何処へ飛んで行っ てしまうか分からないくらいの状況だからだ。とにかくマシンをコントロールする事だけに集中していた ので自分が今何周をクリアしている事さえも分からなくなっていた。



## ライダー 鶴田竜二 コメント

それでもしびれる右手が気になってきたので流石に残り周回数が気になり、サインボードを確認する事にした。レースをスタートした時間が遅くなったのと雨で曇っていたのもあり、あたりは暗くなっていた。そんな中からサインボードの文字を探しながら通過する必要があった。最終コーナーから右側にバンクさせながら立ち上がった短いストレートでサインボードを探しながら通過する際、僅かにアクセルを全開にするタイミングが遅れた為ストレートスピードが伸びず、1コーナーで刺されてしまいトップから順位を下げてしまった。不覚だった。しかし今の状況下では必死に走り続けてきた上での事なのでどうしょうもないと気を落ち着かせ、引き続き冷静に集中を切らさずに走る事に専念した。この時点で残り周回数は3周だった。同じミスをしないようにコーナーの中は多少遅くなっても、ストレートだけは全開で走り、なるべくブレーキを遅らせるながら走るよう意識し走り続けた。右手はかなり張っていて感覚がなくなってきていた。なんとかファイナルラップを迎え、2位でチェッカーを受ける事が出来た。11年ぶりのテイストオブックバレースでしたが、今回はH2Rのデビューレースと言う事もあり簡単には勝てなかったですが後半までトップを走る事が出来、とても気持ちが良かったです。そして久々のレースでしたがこんなに集中しながら走りきれた事もまた自信になりました。

今回は無謀にも下ろしたてのH2Rでレースに挑め、こんな成績が納めれた事を本当に嬉しく思っております。

また昔の仲間と一緒にレースが出来たのも嬉しかったですし、沢山のファンの方がまだまだこのレースを支えてくれている事に胸が熱くなりました。

最後に今回の私ならびにTRICKSTARレーシングからH2Rでの参戦に快くエントリーを許可して頂けた主催者ツクバサーキット様、丸山総合プロデューサー様、ご協力頂いた各関係者の皆様には感謝しております。

